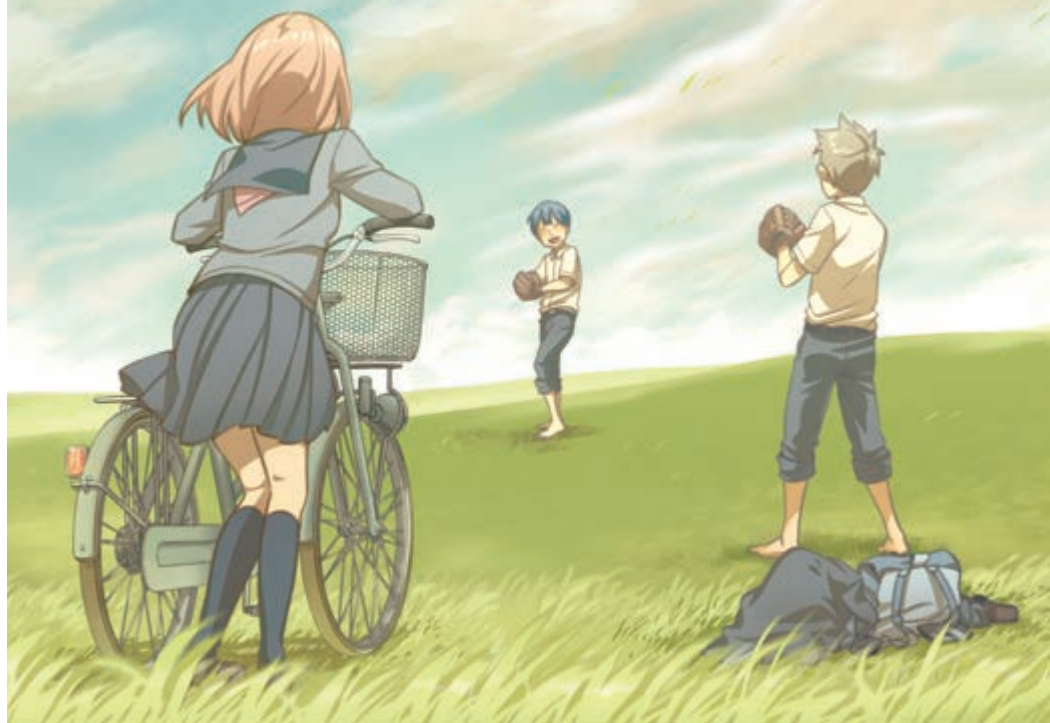


つながるいのち

公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク



命について 考えて みよう

「いのちは大切にしなければいけない」

そんな当たり前のことは言われなくてもわかってる!と、
中学生の皆さんは思いますよね。

でも、なぜ大切にしなければいけないのでしょうか?

両親からもらった命だから? 世界には病気や戦争で

生きたくても生きられない人たちがいるから?

頭ではわかっていても、

実感としては分かりづらいですね。

命について考えるためには、

まず死について考えてみるのも一つの方法だと思います。

死は誰にでも訪れるものです。

この冊子では、3人の中学生のまわりでおきる

生と死の物語を臓器移植をテーマにして考えます。

それぞれの登場人物の立場に立って、

命について、そして死について考えてみてください。



登場人物の紹介

PROFILE

リョウ

中学2年生
野球部の人気者



ハルカ

中学2年生
リョウの幼なじみ



ユウヤ

中学1年生
ハルカの弟、入院中



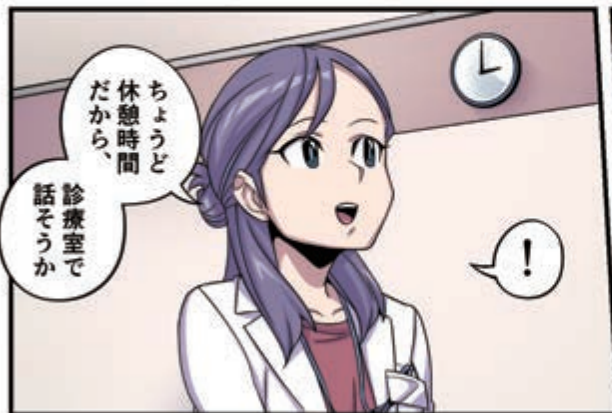
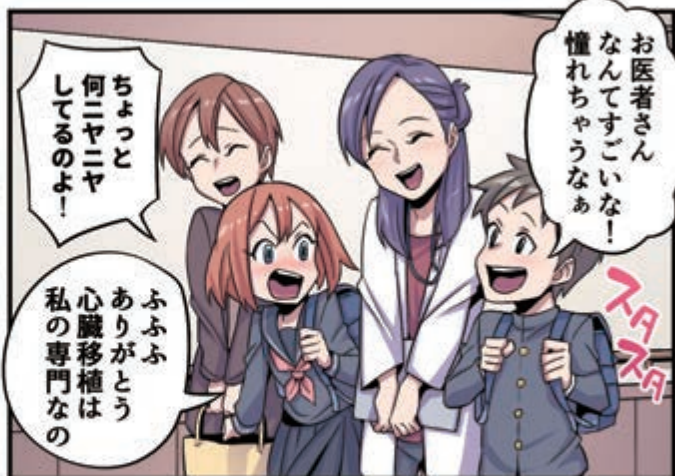
ヨウコ先生

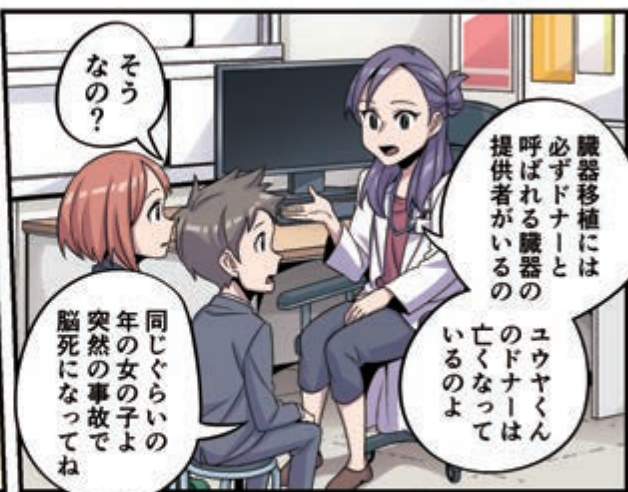
ユウヤの主治医
専門は心臓移植

STORY | 物語のあらすじ

リョウの幼なじみハルカにはユウヤという弟がいる。ユウヤは小学校に入る時に心臓が悪いことがわかった。同級生よりも小柄で、体育の授業はいつも見学。そんなユウヤにとって、リョウは憧れの兄のような存在だった。リョウもユウヤを弟のようにかわいがっていたが、将来心臓の手術をしないと、長くは生きられないと聞いてショックを受ける。ユウヤは中学生になると、体調がさらに悪くなり、学校にも行けない日が続いた。ところが、長く待った末に、ようやく手術が実現した。この日、リョウはハルカと一緒にユウヤのお見舞いに行くことになった。







誰かの想いが
誰かの命を
救うのか…

ユウヤの
ドナーにも、
ご家族にも、
感謝しないとね

私、サックス
レターで
感謝の気持ちを
伝えるわ

ユウヤを
助けて
もらった
から、
私も
臓器提供
しようかな…

そうしな
ければとか
じゃないよ
ヨウコ先生も
自分の意思で
良いつて
言ってたし

いっしょに
考えて
みようよ

僕も頑張って
医者になろう
かな？

違うよ
ユウヤ
みたいな

ただいま
ユウヤ元気に
なってたよ

良かった
わねえ

僕さ、
将来医者
目指しちゃ
おうかな

どうし
たの!?

え〜!!
突然どう
したの!?
さては
ヨウコ先生に
近づく気だ
なあ〜!!

病気の子どもを
治して
あげたい
からだよ!

あのさ!
臓器移植って
知ってる?

臓器移植について

考えてみよう

ユウヤの場合



●小学校入学時の健康診断で
心臓が悪いことがわかった

●体育の授業はいつも見学だった

●高学年になるにつれ、学校も
休みがちになる

●臓器移植が必要だと診断される

●手術まで約3年待つて
心臓移植を受けることができた

●また学校に行けるようになるまで
には、まだしばらく入院や通院が必要

臓器移植とは

重い病気や事故によって臓器の機能が低下し、移植でしか治らない人に、他の人の臓器を移植し、健康を回復する医療です。臓器移植は、善意によるドナーからの臓器の提供がなければなりたちません。

日本で臓器移植の希望登録をしている人は、現在約16,000人。これに対して、移植が受けられた人は1年間に約600人、わずか4%なのです。今この瞬間にも多くの患者さんが移植を必要としています。

※ドナーとは、臓器を提供する人のこと。

臓器移植を希望登録している人



1人 = 100人

移植を受けられた人

600人



移植を受けた人はどのくらい待っていたの？

心臓

861 人 / 約3年半

肺

578 人 / 約2年半

肝臓

366 人 / 約1年

腎臓

14,346 人 / 約15年

膵臓

157 人 / 約3年半

小腸

10 人 / 約1年

1人が救える最大の人数は？

心臓 + 肺 × 2 + 肝臓 × 2 + 腎臓 × 2 + 膵臓 + 小腸 + 眼球 × 2

11人

臓器移植について

考えてみよう

ユウヤのドナーの場合



●ユウヤと同じ年頃の女の子

●ある日突然、事故にあつてしまう

●人工呼吸器等で心臓を動かしているが脳の機能は停止した「脳死」に

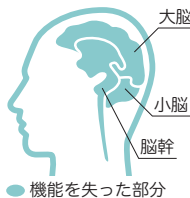
●事故にあう前に、臓器提供の意思表示をしていた

●事故後、両親も本人の意思を尊重して臓器提供に同意した

●彼女の心臓が最もユウヤに適合したため、臓器移植手術が行われた

心臓死と脳死の違い

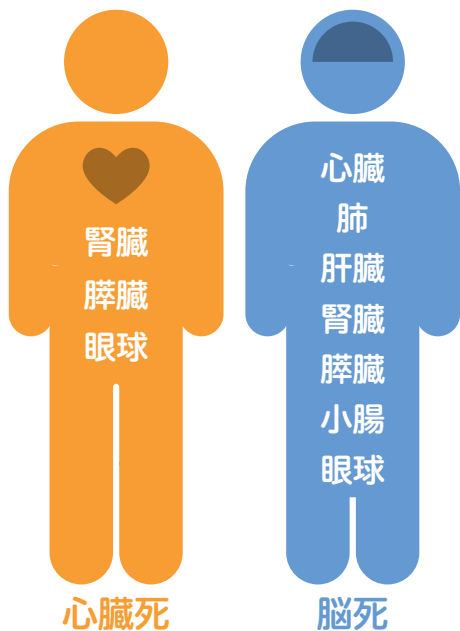
臓器提供をする場合、心臓が止まって死をむかえる「心臓死」と、脳の機能が止まって死をむかえる「脳死」とで提供できる臓器が異なります。



●機能を失った部分

●脳死

頭の中の大脳、小脳、脳幹の全ての働きが失われた状態のこと。二度と回復することはありません。



心臓死

脳死

提供できる臓器の違い

臓器提供に関する4つの権利

私たちには臓器を「提供する」「提供しない」「移植を受ける」「移植を受けない」の4つの権利があり、どれが正しいということはありません。どの意思も等しく尊重されます。



提供する



提供しない



移植を受ける



移植を受けない

意思は何度でも変えられる

「意思」とは、はっきりした気持ちのことです。自分の死後に、臓器を提供するか、しないか、というのはとても大きな決断です。

年齢を重ねるうちに考え方が変わることもあります。家族と話してよく考えてみましょう。何度意思が変わっても良いのです。

※臓器を「提供する」意思表示は、15歳からできます。

臓器提供意思表示カード

厚生労働省・(公社)日本臓器移植ネットワーク



※顔写真は貼付してください。

ドナー情報用全国共通連絡先 0120-22-0149

臓器移植に関するお問い合わせ先：(公社)日本臓器移植ネットワーク
フリーダイヤル 0120-76-1069 <https://www.jotnw.or.jp>

〈1、2、3、いずれかの番号を○で囲んでください。〉

1. 私は、**脳死後及び心臓が停止した死後のいずれでも**、移植の為に臓器を提供します。
2. 私は、**心臓が停止した死後に限り**、移植の為に臓器を提供します。
3. 私は、臓器を提供しません。

〈1又は2を選んだ方で、提供したくない臓器があれば、×をつけてください。〉

【心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・眼球】

〔特記欄：〕

署名年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

本人署名(自筆)： _____

家族署名(自筆)： _____



意思の表し方は5つある

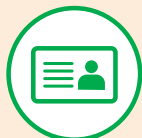
臓器提供についての意思表示には、下記の5つの方法があります。



健康保険証



運転免許証



マイナンバーカード



意思表示カード



インターネット

登場人物になりきって
考えてみよう！

問い 1

もし自分がユウヤだったら、
ドナーの女の子に対して
どんな思いをいだくでしょう？

問い 2

ドナーの女の子はどんな思いから
意思表示をしたのでしょうか？



この話を通して、今あなたは「いのち」についてどんなことを考えていますか？

MEMO

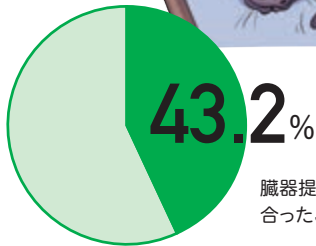
問い 4

もし自分がリヨウの立場だったら、意思表示についてどう考えますか？

問い 3

もし自分がドナーの女の子の家族だったら、どんなことを思うでしょう？





臓器提供について一度でも家族で話し合ったことがある人は43.2%です。

家族とも 話し合ってみよう

死は誰にでも訪れます。ある日事故にあつて死んでしまつたり、重い病気になつたりする可能性は誰にでもあります。そしてその時は突然やってくるのです。自分のことでも難しいのに、家族が死に直面した場合は、きっとものすごく悩みますよね。もし、事前にどう思っているかを知っていたら、意思を尊重してあげることもできます。話しにくいことも知れませんが、自分が、家族が、どう思っているかをよく話し合つておくのはとても大切なことです。

誰かの想いが誰かの命を救う



臓器提供を決断した家族の話

「ママが交通事故を起こして病院に運ばれた。すぐに行つて」と職場に緊急電話。病院へ駆けつけると、重度の脳内出血と分かり事態の重篤さを知る。「このまま逝ってしまうのは、あまりに無念……。無言の妻の頭をなぜながら、「私がしてやる最善の行為は何だろう」と自問する。運転中の発症とはなつたが奇跡的に体は無傷。妻から「あとは任せたら、臓器提供を実現してね」と問いかけられている気がした。妻は以前から意思表示をしていた。子供たちは「望んでいたことをしてあげるのが一番」と全員了解。ただ妻の両親は「絶対に嫌。私より早く死ぬだけ

でも辛く悲しいのに、これ以上体を傷つけ臓器を取り出すなんて」と承諾。

説得は難航したが、妻の従兄が「誰にも死は必ず訪れる。少しでも肉体を生かせるならその可能性を生かすべきだ」と助言し、義母の心を解かしてくれた。臓器は全国5人の患者さんに受け取ってもらつた。葬儀の際に挨拶で臓器提供したことを告知。参列者から「彼女らしい最期。私も提供を真剣に考えたい」と反響を呼んだ。後日、肺を移植した方から「娘の幼稚園行事にも参加できるようにになった」とのお手紙をいただき、「家族の宝物」になっている。

出典：JOT「think transplant vol.24」より抜粋



臓器移植を受けた人の話

心臓移植の手術前は、自分で動くのもままならず、生死の境目を行ったり来たりしていました。そんな私が、手術後1週間で、自分で歩くことができました。また、体がウソみたいに静かで、苦しさもなく、すごく落ち着いていました。それからは、日に日に体調が回復し、今までできなかったことができるようになるたびに、感動の連続でした。そして、退院し家に帰れたときは、なんともいえない気持ちがこみ上げ、涙が止まりませんでした。移植手術を受けたからこそ感じるのかもしれませんが、命の大切さ、時間の大切さを、私たち移植を受けた患者は感じています。移植後に結婚し、子供を授かりました。子供が大きくなったら、「お父さんの体の中には、たくさんの人たちの心が詰まっているんだよ。そして、あなたが生まれたんだよ」と伝えたいと思います。

出典：JOT「think transplant vol.2」より抜粋



公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク

〒108-0022 東京都港区海岸3-26-1 パーク芝浦12階

TEL. 03-5446-8800(平日 9:00~17:30)

<https://www.jotnw.or.jp>



[監修]

柴原 弘志 京都産業大学 教授

佐藤 毅 東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

2024.03